

| | | | | | | | |
|---|---------|-----|------|----|-----|----|---|
| 科目番号 | 25-6372 | 科目群 | 展開先端 | | | | |
| 授業名 | 知的財産法 | | | | | | |
| 担当教員 | 田村 善之 | | | | | | |
| 種別 | 選必 | 単位数 | 4 | 年次 | 2・3 | 学期 | S |
| <p>授業の目的・ねらい・進め方</p> <p>知的財産法、なかでも特許法と著作権法について、法曹として最低限必要と思われる基礎的な知識を習得するとともに、各種の制度の趣旨や論点について学ぶことにより、将来、実務で活躍するために必要となる応用力を涵養することを目的とする。</p> <p>授業は、初回は、イントロダクションとして、知的財産法の初学者のために、総論として、まず知的財産法の対象となる知的財産の特殊性、有体物と異なる点を解説し、そのうえで、知的財産法の基本的な発想の仕方を講義する。</p> <p>以降の授業は大別して、前半の特許法編と、後半の著作権法編に分かれる。</p> <p>前半の特許法編は、田村善之＝時井真＝酒迎明洋『プラクティス知的財産法Ⅰ』（2020年・信山社）、後半の著作権法編は、田村善之＝平澤卓人＝高瀬亜富『プラクティス知的財産法Ⅱ』（2020年・信山社）を教科書とするが、授業の順番は、特に特許法に関しては同書と異なり、下記の順で行う(内容は同書に準拠する)。</p> | | | | | | | |
| 授業の構成 | | | | | | | |
| 第1回 知的財産法総論 | | | | | | | |
| 第2回 (特許法) 特許制度の意義 | | | | | | | |
| 第3回～第5回 (特許法) 特許が認められるための要件 | | | | | | | |
| 第6回～第7回 (特許法) 特許付与の手続き | | | | | | | |
| 第8回～第12回 (特許法) 特許権侵害の成否をめぐる攻防 | | | | | | | |
| 第13回～第15回 (特許法) 特許権の経済的利用 | | | | | | | |
| 第16回～第17回 (著作権法) 著作物性 | | | | | | | |
| 第18回～第23回 (著作権法) 著作権侵害の成否 | | | | | | | |

第24回～第26回 (著作権法) 著作者

| | |
|----------------------|--|
| <p>授業の方法</p> | <p>①双方向的授業を中心に行う ②その他 ()</p> |
| <p>教材等</p> | <p><教科書> 田村善之=時井真=酒迎明洋『プラクティス知的財産法Ⅰ』(2020年・信山社) 田村善之=平澤卓人=高瀬亜富『プラクティス知的財産法Ⅱ』(2020年・信山社) <参考書> 愛知靖之=前田健=金子敏哉=青木大也『知的財産法』(2018年・有斐閣)</p> |
| <p>成績評価の方法</p> | <p>筆記試験を 行う 1. A方式(2時間)</p> <hr/> <p>平常点を 考慮する</p> <hr/> <p>レポートを 課さない</p> <hr/> <p>成績を A+・A・B・C+・C-・Fで評価する</p> |
| <p>開講年度 (予定)</p> | <p>1. 毎年開講</p> |